

ならぬことは ならぬものです

校長 清水 康男

3月の東日本大震災で未曾有の災害に遭われた東北地方の福島県に会津若松市があります。会津若松市には「会津藩校 日新館」があります。「日新館」は、江戸時代に会津の若者を育てた学校です。上級武士の子が10歳になると通って学びました。日本最後の内戦である幕末の戊辰戦争（1868年）で戦った白虎隊もこの中から選ばれていきます。日新館に、この若者たちを教え導いた「日新館訓」があります。幾つかある「日新館訓」の中に、「什の掟（じゅうのおきて）」があります。「什」とは、子どもたちの組織（遊び仲間）のことです。

什の掟

- 一 年長者の言うことに背^{そむ}いてはなりません。
- 二 年長者にはお辞儀^{じぎ}をしなければなりません。
- 三 うそ^{うそ}を言うてはなりません。
- 四 卑怯^{ひきょう}な振舞^{ふるまい}をしてはなりません。
- 五 弱い者をいじめてはなりません。
- 六 戸外^{こがい}で物を食べてはなりません。
- 七 戸外^{こがい}で婦人^{おんな}と言葉^かを交^かわしてはなりません。

ならぬことは ならぬものです

現代にそぐわないものもありますが、今の子どもたちにしっかり教えたいたいものもあります。

- 一 大人の言葉に背を向けてはいけません。
- 二 大人にあいさつをしなければいけません。
- 三 うそをついてはいけません。
- 四 卑怯なことをしてはいけません。
- 五 弱い者をいじめてはいけません。
- 六 食べ歩きをしてはいけません。

など、時代を超えて通用するしつけではないかと思います。



最後の「ならぬことは ならぬものです」は、二通り解釈できます。一つは、分け隔てなく、上級武士の子であろうが下級武士の子であろうがしてはいけないものはいけない、という考えです。もう一つは、子どもを叱るときに、「なぜしてはいけないのか」など理由・理屈を言って教えようとしますが、すべてがそうではない。理由はともかく「いけないことはいけない」という考えです。

今の時代、理由をつけてしつける風潮が強すぎるようにも思います。しかし、卑怯なことやうそをつくこと、弱い者いじめなどは理屈抜きにいけないことなのです。家庭でも、学校でも、社会でも子どもが小さいうちから教え、しつけていくことが大事であると考えます。

校舎建設状況について

新校舎建築現場は周りがシートで囲われているため、外からはよく見えませんが、中では、工事がどんどん進んでいるようです。間仕切りは終わり、天井ボード貼りや壁の塗装などへと作業は移っています。外壁の色も少しずつ見えてきました。予定が早まり、1月頃には完成する見込みとなりました。

1学期には、児童会が中心となって工事の方々へのメッセージを全校で作成し、窓越しに掲示しました。すると、工事の方々が大変

喜ばれ、「疲れが吹き飛ぶ。」「がんばろう。いい校舎にしようという気持ちになりますよ。」「と言われました。また、メッセージを写真に撮って、仮設工事事務所の壁に飾られていて、こちらも大変うれしい気持ちになりました。

あと数ヶ月。新しい校舎の完成を楽しみにしながら、これまでの校舎に感謝の気持ちをもって、学校生活を送ってほしいと願っています。



立山登山 「思い出の1ページ」 ～6年生～

8月3・4日に、6年生の立山登山がありました。雄山登頂コースと弥陀ヶ原コースに分かれて、友達と声をかけ合いながら行動し、小学校での大切な思い出をつくりました。



すてきなお花畑にうっとり！

足元の岩に注意して、ゆっくり、ゆっくり。声かけてもらってうれしいな！



雪道は慎重に歩こう。サポート隊の皆さん、ありがとうございました。



『全力5年生』 宿泊学習

～5年生～



今月の8・9日に、「国立のと青少年交流の家」で、5年生の集団宿泊学習がありました。

能登といえば、何と言っても水辺の活動。子どもたちは、初めての体験に目を輝かせて取り組みました。他の活動でも、グループの仲間と協力しながら楽しむことができました。

普段の学校生活とは一味違った子どもたちの姿。それは、学年目標である「全力5年生」そのものでした。

